

ヨハネ 17 章 20～26 節「彼らもわたしとともに」

キリスト教を信じたらどんな良いことがあるのかと思う人もいるでしょう。イエス・キリストを信じたら、素晴らしいことが色々あります。それらは、皆さんが求めているような良いこととは違うかもしれません。しかし、確かに素晴らしいものが与えられていくのです。そのことがこの聖書の箇所からも分かります。

イエス様が最後の晩餐の後に祈られた祈りのことばが 17 章に記されています。

20 節。ここまでの祈りは直接的には、その場にイエス様と共にいた 11 弟子のために祈られたものでした。でもそれだけでなく、イエス様は、弟子たちのことばによってイエス様を信じる人々のためにも祈られました。やがて弟子たちは救い主イエス様のことを人々に伝えていくこととなります。彼らの宣教のことばによって、イエス様を信じる人々が起こされ、各地に信者の群れ、教会ができていくこととなります。その信者たちのためにイエス様は祈られました。

イエス様の十字架とよみがえりから 50 日後、ペンテコステの日に、弟子たちに聖霊なる神様が与えられ、それから、弟子たちはイエス様のよみがえりの証人として、救い主イエス様を宣べ伝えていきます。そうして、イエス様を信じて救われる人々が起こされていきます。以来、イエス・キリストの福音は宣べ伝えられ、教会が立てられ、2000 年続いてきました。そのように神様のみわざは続いてきて、世界中に広がってきたのです。この教会もその神様のみわざの中にあるのです。

ですから、イエス様のこの祈りは、私たちのためにも祈ってくださったのです。では、イエス様が私たちのためにも祈られたのは、どのようなことだったのでしょうか。

21 節。イエス様は、ご自身を信じるすべての人を一つにしてください、と祈られます。すでにイエス様はこのように祈られていました。11 節の途中からですが、「聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです」。その箇所では、イエス様は父なる神様の聖さを特に意識して祈られました。弟子たちが、聖なる神様にふさわしく整えられて、一致を保っていくことができるということでしょう。

人はそれぞれ罪を持っています。神様に背き、自己中心になりやすいものです。その結果、互いに争ったり、無視したり、傷つけたりすることになってしまいます。しかし、救い主イエス様によって、そのような罪を赦していただき、また癒していただいて、そして聖めていただくことができます。そのような恵みをいただいて、互いに赦し合い、一つになることができます。

ここでイエス様は「すべての人を一つにしてください」と祈るとともに「彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください」と祈られました。この二つの句は並列しています。そのように、私たちそれぞれが神様との交わりのうちにいるときに、私たちは一つになることができるのです。

人々は、一緒にいてお互いのことを知ることで一致することができるように思うかもしれませんが、けれども、そうしてお互いの距離が近くなることもあるかもしれませんが、それゆえにかえってお互いの違いによって反発し合うこともあります。人々が一致するためには、それぞれが神様との交わりのうちにいることが必要です。救い主イエス様を信じることで主イエス様と一つにされて、その結果、互いに一致を保つことができるのです。

そのことをイエス様は繰り返して祈られました。22～23 節。イエス様が祈られた、私たちが一つになることの鍵は愛です。神様の私たちに対する愛が、御子イエス様を世に遣わされたことによって明らかにされました。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」と言われている通りです。その神様の愛を感謝して受け取るなら、その神様の愛によって一つになることができます。そして、その神様の愛を世の人々に示していくことができるのです。

聖書のみことばによって救い主イエス様のことを知り、信じるなら、このような一つになる祝福の中に入ることができます。その一致は、一人一人が救い主イエス様によって罪を赦していただき神様と和解させていただくことに基づいています。そして、神様の愛をいただいたので、その愛によって、互いに愛によって接することができるのです。神様の愛によって一つとされている教会に、ぜひ加わっていただきたいのです。

さらにイエス様はもう一つのことを祈られます。24 節。「わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください」とイエス様は祈られました。弟子たちはこの時はまだよく分かっていませんでしたが、イエス様が彼らと別れる時が近づいていました。イエス様が天に昇られた後、弟子たちは寂しさと不安に襲われることがあった

かもしれません。しかし、イエス様が「わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください」と祈られたことを思い出し、励ましを与えられたことでしょう。

すでにイエス様は弟子たちにこのようにお話になっていました。14章2〜3節。イエス様が天の父なる神様のもとに戻り、そこに弟子たちの場所を用意してくださるのです。そして、イエス様がまた来て、弟子たちを、そして、すべての信じる者たちを、イエス様のもとに迎えてくださいます。イエス様がいるところに、クリスチャンたちもいることができるようになるのです。そのようにイエス様は約束してくださいました。

そして、17章の祈りの中でもイエス様は、「わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください」と父なる神様に祈られました。そして、これはイエス様の祈りですから、このことはもちろん父なる神様の御心にかなうことです。父なる神様が必ず実現してくださるのです。

天の御国で主イエス様がいるところに、ともにいることができること、そこに永遠の住まいが用意されていることは、イエス様を信じる者たちに約束されていることです。このことがイエス様を信じる私たちにも約束されているゆえに、私たちもこの希望によって励ましをいただくのです。

そこには、神様の栄光、イエス様の栄光が輝いているのです。そして、その栄光をクリスチャンたちは見ることができるのです。神様に直接お会いすることができ、御前で直に礼拝をささげることができるのです。その時を目指してクリスチャンたちは、神様の御前に出る者としてふさわしく成長していくことを祈り求めます。聖なる神様のものとして聖別されることを祈りつつ、この世にあって歩むのです。

イエス様はこのようにとりなして祈ってくださり、そして次のようにこの祈りをまとめられました。

25〜26節。ここでイエス様は、父なる神様を「正しい父よ」と呼びます。イエス様が祈られていることは、神様が義と認めた人々のことを、正しい神様は最後まで正しく導かれるということでしょう。

「この世はあなたを知りません」と言われるイエス様のことばから、この世の現実を改めて知らされます。この世の人々は、神様に背を向け、神様のことを知りません。それゆえに、御子イエス様がこの世に遣わされて来ました。イエス様によって、人は目に見えない神様を見ることができ、知ることができました。父なる神様と一つであり、御父を完全に知っておられる御子イエス様がこの世に来られて、神様のことを知らせてくださいました。イエス様によって、父なる神様の御心が教えられました。イエス様によって、神様の力が現されました。イエス様によって、神様の恵みとまことが、旧約時代よりもさらに明らかにされました。

そして、イエス様は「これからも知らせます」と言われます。そのように祈られ、また決意を表されるのです。それは、イエス様がこれから向かわれる十字架とよみがえりによって、神様の救いのみわが成し遂げられることを指しているのでしょう。また、その後、弟子たちが聖霊に満たされて、福音を宣教していく中でも、救いのみわが進められていくことを指しているのです。そして、救い主イエス様によって、今も私たちに神様の御心が教えられていることも指しているでしょう。

大事なものは、知ったらならば、そのことに信頼していくことです。それが信仰です。神様がイエス様によって表してくださった愛を、感謝して受け取ることで、救いが私たちのものとなります。その時に、私たちは御霊によって新しく生まれています。御子の御霊が私たちのうちに住んでくださるのです。御霊がみことばを悟らせてくださいます。それぞれがみことばから知ったことに信頼していただきたいと思います。

イエス様は弟子たちのためだけでなく、弟子たちのことばによって救い主イエス様を信じる者たちのために祈られました。私たち教会のために祈ってくださったのです。

聖書のみことばによって救い主イエス様のことを知り、信じるなら、主にあって一つになる祝福の中に入ることができます。その一致は、一人一人が救い主イエス様によって罪を赦していただき神様と和解させていただくことに基づいています。そして、神様の愛をいただくので、その愛によって、互いに接することができるのです。神様の愛によって一つとされている教会に、ぜひ加わっていただきたいと思います。

救い主イエス様を信じる者たちは、やがて天の御国で、イエス様とともにいることができるようになるのです。その永遠の住まいが約束され、希望が与えられているのです。この希望を一人一人に持っていただきたいと思います。

イエス様によって父なる神様のことが明らかにされました。私たちも、聖書のみことばによって、イエス様のことを知らせていただき、父なる神様のことを知らせていただきましょう。そして、知ったことに信頼して歩いていきましょう。